



みえ夢学園高等学校の1階「みんなのトイレ」内にある男女共用個室型トイレ。少し広めに設計された個室には、手洗器も設置されている。

学校
トイレ事例
03
改修

三重県立みえ夢学園高等学校 三重県立四日市高等学校

20年後も快適に

「未来の当たり前」を考えたトイレ

温水洗浄便座を

すべてのトイレに設置

「今回改修を行ったら、次の改修は20年後になってしまうかもしれません」

そう話すのは三重県教育委員会事務局学校経理・施設課の山下典博さん。20年後も快適に使えるトイレを目指し、みえ夢学園高等学校と四日市高等学校では耐久性・衛生性・快適性・省エネ性・メンテナンス性を考慮したトイレ改修が行われました。

その一つの例として、トイレ内の大便器はすべて洋式化し、温水洗浄便座を採用しました。家庭内や商業施設では一般的になっている温水洗浄便座が、近い未来に学校でも当たり前になっている可能性を考えて、設置に至ったといえます。

一部のトイレにのみ温水洗浄便座を採用すると、そのトイレが集中して使用される可能性があるという事です。すべてが温水洗浄便座であれば、生徒はもちろん、学校を訪れるさまざまな人がどのトイレであっても快適に過ごせると

いうわけです。

一時期は、洗浄機能のない暖房便座も候補に挙がったとのこと。

しかし、機器の節水性の向上や節電機能などにより光熱水費は大幅に削減されることがわかり、温水洗浄便座に決定しました。三重県は今後、温水洗浄便座の設置を県内全域に広げていく計画です。

多様な価値観に配慮
新しいトイレの形

みえ夢学園高等学校、四日市高等学校では男女別のトイレの他に、性の多様性に配慮した男女共用トイレを設けています。同校の男女共用トイレは、複数個の個室トイレ（みえ夢学園高等学校、四日市高等学校ともに5ブース）を1カ所に集約するという、先進的な事例です。

男女共用トイレ内の個室の扉には、男女のマーク、車いす、オストメイトなどいろいろなサインが並べられ、「誰でも使用していい」というメッセージを発しています。性別などに関係なく、たくさんの方が利用しやすいようにという思いも込めて、「みんなのトイレ」と

1階「みんなのトイレ」内には車いす使用者も快適に利用できるバリアフリートイレを設置。三重県ではコロナ禍の生理の貧困支援で、すべての学校に生理用品が備えられている。



使用者のイメージを特定しないよう、サインは単色にまとめられている。



2階女子トイレ。手洗いは水仕舞いがよい壁付タイプの自動水栓を採用。



「みんなのトイレ」にはさまざまな広さや設備が備わった個室が設置されており、生徒は好きなトイレを選んで使用することができる。

名づけられました。

男女共用トイレの設備としては
 ①個室内に手洗いがついたもの、
 ②さらに車いす使用者も入ること
 ができるもの、③オストメイト対
 応設備も備えたものと、バリエー
 ションも豊富です。さまざまなタイ
 レの選択肢があった方が、多くの生
 徒が利用する可能性が高まると考
 え、このような形になりました。

ところが、オストメイト対応設
 備については、設置すべきかどうか、
 教育委員会内でも少し議論があり
 ました。現在のバリアフリー法では、
 新築の際にオストメイト対応設備
 の設置は必須です。しかし、今回
 のような改修には当てはまらない
 ことも背景にあったといいます。

「オストメイト配慮が必要になる
 のは成人以降が多いと聞いたこと
 もあって。ですが、保護者の方
 など生徒以外の利用も考えられ
 ますし、さまざまな障がいに対応



「みんなのトイレ」入り口。個室数を増やすことで、誰もが使いやすいトイレを目指した。

したトイレを整備することで少し
 でも使いやすいトイレにしたいと思
 い、導入を決めました」(山下さん)

**生徒が長年にわたって
 使用することを考えた**

改修前、最も損傷が激しかった
 のはトイレブース。それまでは湿
 式清掃であったため、どうしても
 下からの水分を吸ってしまい、タイ
 レブースの角の部分がぼろぼろに
 なってしまっていたそうです。そこ
 で今回は、床の乾式化を決定。一
 方で、湿式を望む声もあったとい
 います。

「掃除指導に熱心な先生ほど、
 湿式清掃を望まれる傾向にあり
 ます。やはり、水で洗い流さない
 ときれいにならない印象をお持ち
 のようです。けれども、床が濡れ
 ていると使いづらく、菌も繁殖し
 やすく、結果的に不衛生となる
 ので、根気よく説明しました」(山
 下さん)

清掃のしやすさを考慮し、壁
 材やトイレブースには、汚れを拭
 き取りやすいメラミン化粧板を採
 用しました。

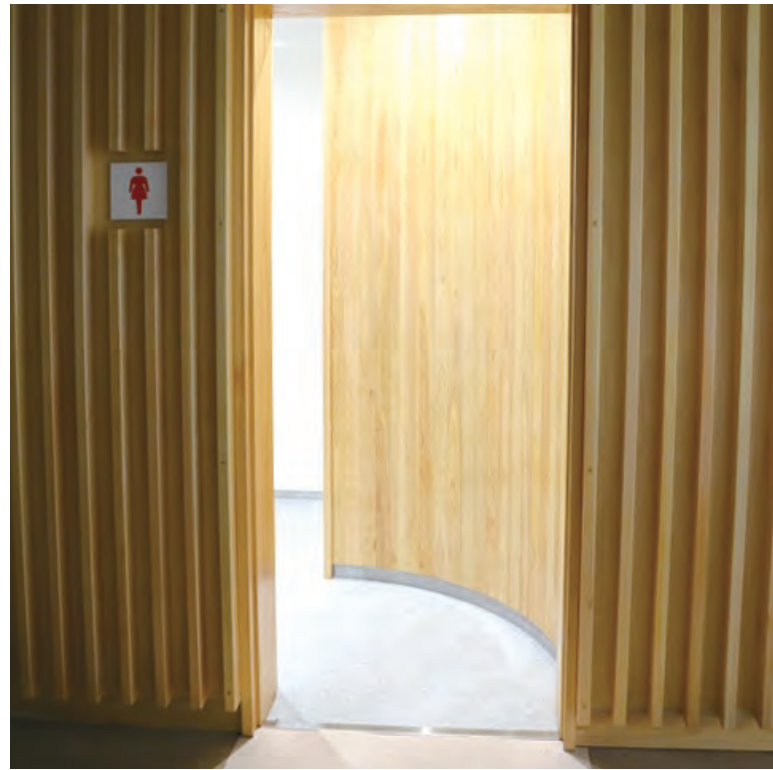
体が大きい生徒も困らないよう
 に、ブースの寸法にもこだわりま
 した。設計事務所が作成した図
 面をもとに、スケールを用いなが
 ら教育委員会内で何度もシミュ



四日市高等学校の3号館1階「みんなのトイレ」。



2号館1階の男女別トイレの隣には「バリアフリートイレ」が1室ずつ設けられている(四日市高等学校)。



2階女子トイレ入り口。非接触にするためドアを設けず、視線がトイレ内に入り込まないようにR形状の壁で工夫した。壁材には三重県産の木材を使用。

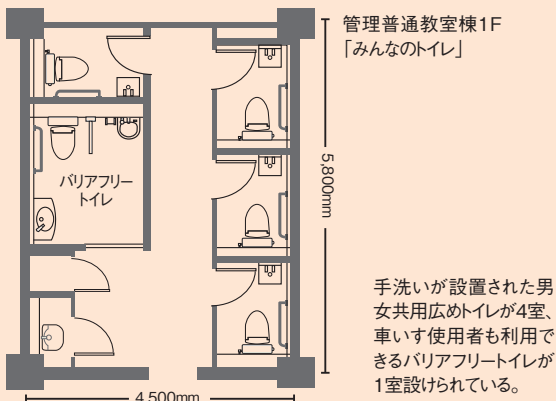


3階男子トイレ。小便器下の床には防汚性の高い汚垂れ石を設置。大便器はすべて温水洗浄便座を採用。

レーションを行ったといえます。
 三重県では今後、「三重県立学校施設長寿命化計画」に基づき、2024年までに県内62校の学校のトイレ改修に着手する予定です。その際、温水洗浄便座をはじめ、可能な限り居住環境と同水準のトイレに改修していくことを目標としています。
 「トイレを設計する際、『我々の世代の学校トイレには、そのようなものはなかった』など、私たちの世代のイメージで計画を立てがちです。だからこそ先を見据え、子どもたち目線でのトイレづくりが大切だと感じています」(山下さん)

三重県立みえ夢学園高等学校 DATA

名称：三重県立みえ夢学園高等学校
 所在地：三重県津市柳山津興1239
 生徒数：473名(2022年5月)
 施主：三重県
 設計・監理：森本建築事務所
 施工：安濃建設
 竣工年月：2021年11月



三重県立四日市高等学校 DATA

名称：三重県立四日市高等学校
 所在地：三重県四日市市富田4-1-43
 生徒数：957名(2022年5月)
 施主：三重県
 設計・監理：公益財団法人 三重県建設技術センター
 施工：岩田組、北勢電気
 竣工年月：2021年10月

